

# 社会科学学習指導案

生徒 第1学年B組 男子21名 女子19名 計40名  
指導者 教諭 郡司直孝

## I 単元『中世の日本と世界』

### II 単元について

本単元では、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させることを目的としている。

本時では、生徒が授業を通して積み重ねてきた具体的で個別的な歴史的事象を関連させ、中世がどのような時代であったかを考え、大きく時代を捉え自らの言葉で説明するための学習活動を展開する。その際、協同的学びを効果的に取り入れ、互いの学びの良さを生かすことで、立体的に歴史を大観できる生徒の育成に取り組むたい。

### III 生徒の実態について

意欲は高く、個別の歴史的事象に関する知識や理解は少なくない。しかし、事象間の関連を捉えたり、諸資料に基づいて判断したり考えたりすることを苦手としている生徒が多い。また、お互いの意見を交流し、意見をまとめる協同的な学習に慣れておらず、その良さを生かすことができていない。

個別的・具体的な事象をまとめる学習活動では、事象の羅列や事象間の関連を踏まえない記述が多く見られる。しかし、継続的な取組により徐々に事象間の関連に着目したまとめを行うことができる生徒が見られるようになってきている。

### IV 単元の指導目標

中世の歴史的事象から課題を見いだし、中世の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】	中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の文化遺産を尊重しようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
年表や歴史地図、映像など中世に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【資料活用の技能】	
中世の特色などを、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。 【社会的事象についての知識・理解】	

### V 指導計画 (16時間扱い・・・本時15/16)

学習内容	指導内容	時間	<基礎的・汎用的な能力>との関連
世界の動きと武家政治の始まり	武家政権の成立と支配権の広がりを把握させ、武士による支配のしくみや諸産業の発達、文化面における変化について理解させる。	7	【課題対応能力】 【キャリアプランニング能力】
ゆれ動く武家政治と社会	武家支配のさらなる広がりや東アジアとの密接なかかわり、都市や農村における自治や文化の広がりについて理解させる。	6	【課題対応能力】 【キャリアプランニング能力】
中世の特色をとらえよう	中世における日本の政治・外交・経済・文化・生活から多面的・多角的に考察させ、中世の時代の特色を理解させる。	3 本時 (2/3)	【課題対応能力】 【キャリアプランニング能力】

### VI 学校研究との関連について

中世がどのような時代であるかをまとめる「問題」を解決するために、各個人が調べまとめた情報(資料)に基いた協同的な学びによって、事象間の関連を踏まえて時代を大観する力を高めていく。

## Ⅶ 本時案

1 題材 「中世を立体的にとらえる」

2 学習目標

・中世の時代の日本の様々な面の変化について、学習内容を振り返りながら追究することができる。  
【社会的な思考・判断・表現】

・鎌倉時代と室町時代のそれぞれの時代の特色を考えることを通して、古代と比較しながら中世の特色を理解することができる。  
【社会的事象についての知識・理解】

3 学習の展開

	学習内容	教師の働きかけ	指導上の留意点
前時	<p>中世とはどのような時代だったのか</p> <p>○個人のまとめを基に、＜政治＞＜経済＞＜外交＞＜文化＞＜生活＞の分野別のまとめを行う。</p> <p>○分野ごとにグループを作り、お互いのまとめを交流する。</p>	<p>○単元の学習内容を踏まえたまとめをさせる。</p> <p>○グループ内での共通する内容や表現の異なる内容に注目させる。</p>	<p>○ワークシートBを用いる。</p> <p>○ホワイトボードを用いる。</p>
	<p>○＜政治＞＜経済＞＜外交＞＜文化＞＜生活＞の各分野のグループ内で、個人のまとめ等に基づいた交流を行い、発表用の資料を作成する。</p> <p>○グループの4人のうち、1人を発表者とし、3人を他分野への聞き取り役とする「交流①」を行う。</p> <p>○他分野への聞き取り役3人が自分のグループでその内容を発表する「グループ内交流①」を行う。</p> <p>○「交流②」における発表者と聞き取りを行う分野を考える。</p>	<p>○個別的・具体的な事象をより一般化するような話し合いをさせる。</p> <p>○聞き取り役には、他分野のまとめの正確さやわかりやすさを確認させる。</p> <p>○聞き取った内容やフリップの画像などを資料として活用し、わかりやすく伝えさせる。</p> <p>○他分野の発表内容の正確さや内容量の多寡を基に、交流②で聞き取りに行く分野を考えさせる。</p>	<p>○必要に応じて教科書やノート、資料集、用語集等を用いた調べ直しをさせる。</p> <p>○聞き取り役はタブレットを用い、他分野の発表内容を記録する。</p> <p>○発表者（交流①での聞き取り役）はタブレットを用いる。</p> <p>○課題追及のために必要な情報を考えさせる。</p>
次時	<p>○「交流②」を行う。</p> <p>○「グループ内交流②」を行う。</p> <p>○分野間の関連や古代の特色との比較を踏まえて、中世の特色について考える。</p>	<p>○聞き取り役には、他分野のまとめの正確さやわかりやすさを確認させる。</p> <p>○聞き取り役の3人に聞いてきた内容を発表させる。</p> <p>○事象の羅列でなく、事象間の関連や自らが行った古代のまとめに注目させる。</p>	<p>○聞き取り役はタブレットを用い、他分野の発表内容を記録する。</p> <p>○発表者（交流②での聞き取り役）はタブレットを用いる。</p> <p>○ワークシートCを用いる。</p>

4 評価

(1)ワークシートAとグループ内での交流に基づいて、分野のまとめを行うことができたか。

(2)5つの分野間の関連と自らがまとめた古代の特色を活用して、中世の特色についてまとめることができたか。